

III-6 こんな時 どうする？

<エピソード 1>

小学校1年生のみつ男くんは、毎朝、学校へ行くための支度に時間がかかりすぎ、通学団の集合時間に遅れがちです。

お母さんは、みつ男くんに「いつまでぐずぐずしているの。もう幼稚園じゃないんだよ・・・。」「早くしなさい・・・。」「また遅刻したいの。みんなに迷惑だよ。」と、毎日のように声をかけていますが、みつ男くんの様子は全く変わりません。



Work①

お母さんがみつ男くんに声かけをしている時、お母さんはどんな表情をしているでしょうか。また、どんな気持ちでしょうか。

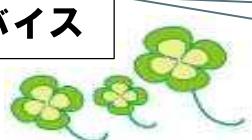
Work②

お母さんの言葉を聞いても、みつ男くんの様子が変わらないのはどうしてでしょうか。

Work③

みつ男くんの様子を改善するために、あなたなら、どのように接しますか。

アドバイス



みつ男くんの良さに目を向けよう・・・

<エピソード 2>

小学校4年生のあき男くんと小学校2年生のみゆきさんは、お母さんと一緒に晩ご飯を食べています。

みゆき：「お母さん、私また100点とったんだよ。これで連続5回だよ。」

お母さん：「すごいねえ。やっぱりみゆきは、勉強がよくできるね。次もがんばってね。」

みゆき：「うん、それから体育で走るのも一番速かったよ。」

お母さん：「へえ、みゆきちゃんは何でもできるのね。やっぱり、私に似たのねえ。」

二人の会話を聞きながら、あき男くんは、うつむいてご飯を食べています。

その様子に気づいたお母さんは、あき男くんに声をかけました。

お母さん：「…………」

すると、あき男くんは笑顔になり、会話に加わることができました。



Work④

うつむいてご飯を食べているあき男くんは、
どんなことを思ったのでしょうか。



Work⑤

お母さんは、あき男くんにどのような言葉をかけたのでしょうか。
笑顔になったあき男くんの気持ちを想像しましょう。



資料

<自己肯定感を育むには・・・>

人は愛され理解されたがっている存在です。理解されないときの不満がたまるとキレることもあります。突然子どもがキレたとき、本人も親も理由がよく分からず、怒ったり苦しんだりしますが、理由はあるのです。

日ごろから相手の話をじっくり聞き、同じ目の高さで考える、深い関心を払う、といった姿勢を親が身に付けることで子どもは親に愛されている実感を得ることができます。

子どもは愛されていると感じるとき、安定した気持ちで問題に立ち向かうことができます。そして、不必要に攻撃的にならず、他者や問題を受け入れることができ、大きく成長できるのです。

<文部科学省 家庭教育手帳>

アドバイス

成功とは結果であり、目標ではない。

